

クラス	310	担当教員	小 坂 啓 史
テーマ	視覚・映像文化の社会学～鑑賞・解釈・創作を通じて学ぶ～		
著書・論文	【近年の研究課題】映画社会学、芸術社会学、鑑賞と解釈、演技と相互行為		
研究課題等	2023 年「スティーブン・スピルバーグ監督と『映像化社会』」（鼎談）		
	2022 年「ケアの動機とアフォーダンスについての考察」（論文）		
	2020 年「映画の表現技法におけるモンタージュと鑑賞」（研究ノート）		
	2020 年「芸術への解釈的相互関係の視点とパウル・クレー」（論文）		
ゼミナール概要			
キーワード：			
《内容・方法について》			
（１）視覚芸術・文化への／による社会的影響を社会学で読みとく			
このゼミでは「社会的想像力」を用いて、制作者によって表現された作品、とくに視覚芸術・文化のさまざまな作品を社会的に解釈し、時代や社会との相互影響関係について広く考察していきます。対象としては、実写だけでなくアニメーションをも含む映像・映画、写真や絵画・イラスト、漫画やグラフィック・ノベル（バンド・デシネ）なども含まれます。さらに、現代社会における社会問題や社会状況が、上記のような作品でどのように表現、問題提起されているか（あるいはされていないか）についても考察していきます。表現手法によってどのように描かれ方が異なるか、印象や意味のちがいがどのようにあらわれているかについても考えていきます。			
（２）映像作品の制作活動			
すでに存在する作品を対象として考察するだけではなく、このゼミでは主体的な創作活動についても行っていきます。社会や日常世界をどのように写し取り、構成していき、どのような意味づけをしていくかについて考え、実際に映像制作を行います（ショート・ムービー等）。これを通じて「現実」認識の相対化と新たな構築という主体的参加を伴った、社会構想の社会的「実践」を進めることを目標とします。			
（３）社会学の研究方法を身につけよう			
社会学の研究方法についても、改めて学んでいきます（主に４年生時）。研究をしたり論文を書いたりするためには、問題関心、研究テーマのブラッシュ・アップのしかたや、それをどのように具体的に分析、考察したらよいのかについて理解する必要があります。卒業研究については、自分が追求したいテーマを見つけることを含め、なるべく早めに計画を立てて着手していきましょう。			
※なお、社会の理解は一領域では完結せず、総合的な学習と理解が必要となります。このため、他の社会系の先生およびゼミとの相互交流・指導を行います（卒業研究報告会等）。			
《ゼミの進め方など》			
最初は共通の文献や論文を取り上げて、まずは解釈・考察に必要な知識や方法について目くばせしていきましょう。まず最初は報告と話し合いをしていくことがメインになります。また、 3年生（予定）の夏休み期間に、ゼミ合宿 を行う予定です。また、 映画祭（11 月頃）や美術館の展覧会等へのゼミでの参加、上記映像制作を含むゼミ活動（主に後期） も予定しています。これらへの参加を前提に、エントリーをしてください。			
担当教員からのメッセージ			
ゼミでは使わないでほしい言葉があります。それは、「わかりません」「同じです」です（これらのバリエーションも）。わからないことがあれば、きちんと提起をして、みんなで話し合って考えていけばよいですし、また、意見が他の人と同じでも、きちんと自分の言葉で述べるのが大事です。また、意見を単純化させすぎることにも気をつけてください（たとえば、「（どうせ）～にすぎない」といった言いまわし）。社会で起こるさまざまな現象は、「～にすぎない」など、一言で答えられるほど単純なしくみで現れてくるわけではありません。またこの意味での単純化は、よくない意味での「シニカルさ」につながり、結局、主体的な考察を放棄してしまうことになる恐れもあります。わからないことや知らないことがあるのは恥ずかしいことではありません。集中しつつもリラックスして、ゼミに臨んでください。そのための環境づくりには配慮いたします。			